

令和2年度 自己評価書

学校名	和歌山市立貴志南小学校
校長氏名	寺上 円女
作成日	令和3年 3月 12日

1 教育目標

21世紀に生きる望ましい人間像をめざし、一人一人の子どもの主体性・創造性を養い、心身ともに健康で、豊かな人間性や社会性のある子どもの育成をめざす。
— たくましい子、やさしい子、考える子 —

2 本年度の取組についての評価

	開かれた学校	たくましく健やかな体	大きく豊かな心	確かな学力
指標	<ul style="list-style-type: none"> 学校の様子がよく伝わった【HP閲覧数】年間12000回 地域学習を学年に応じて1回は行う。【教師100%】 	<ul style="list-style-type: none"> 朝ごはんを食べた【児童95%】(わんわん貯金) 積極的に運動を行うよう計画し、実践する。【教師95%】 	<ul style="list-style-type: none"> 「わたしは学校が楽しい」【児童95%】 命の大切さや社会のきまりについて教えてもらっている【児童85%】 QUの生活満足群【85%】 	<ul style="list-style-type: none"> 県学習到達度調査等の無回答率の改善【前年度比10%↓】 「学校での勉強がわかる」【児童85%】
重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ◎家庭・地域との連携充実 ◎保幼小の接続、中学校区における学校間連携の推進 ○地域の資源活用の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ◎体力向上の推進 ◎基本的生活習慣の確立 ○危機回避能力の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ◎いじめの未然防止、早期発見 ◎インクルーシブ教育の普及 ○道徳・人権教育の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ◎基礎・基本の確かな定着 ◎子供主体の授業の推進 ○家庭学習の定着 ○読書活動の推進
取組の状況	<ul style="list-style-type: none"> HPや各種便りを通して学校の情報を発信する。 地域人材の活用(ゲストティーチャー、体験活動) 中学校での幼小、小中の連携を充実させる(特別支援学級の交流、中学校への見学)。 	<ul style="list-style-type: none"> 手洗い、うがい、換気、マスク着用の徹底。 「わんわん貯金」の実施と振り返り。 視機能検査を実施し、見え方の困り感について対応する。 休み時間の外遊びの推奨。 医師等によるアレルギーや心肺蘇生法についての職員研修の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> QUアンケートの実施と気になる児童の把握と対応。 「南の子」において、児童の様子の共通理解を図る。 あいさつ、整頓の励行。 特別支援学校等の講師を招聘しての出前授業を実施。 道徳・人権の授業参観の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字博士試験の実施 補充学習の実施(放課後等) 取り出し等による個に応じた指導。 和歌山大学教育実習の受け入れ。 ノート指導の共通理解と取組。 読書時間の確保。 自分の言葉で説明する時間の確保。
取組の成果と課題(評価)	<ul style="list-style-type: none"> HPの閲覧数は、2月末で約5300であり、目標には遠く及ばなかった。学校の情報や児童の取組の様子などをもっと見てもらえるよう工夫が必要である。 地元の農家の方に指導していただき、田植え・稲刈り体験、野菜作り体験は実施できた。今年度はコロナの影響で地域との関わりや、育友会行事などが実施できず、十分な取組ができなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 大休憩や昼休みに、外に出て遊ぶ子供は増えている。特に高学年では、長縄の記録に挑戦したりして、意欲を持たせて体を動かす機会を持てた。バスケや陸上については実施できなかった。 手洗い、うがい、換気、マスク着用は徹底できた。 朝ごはんを毎日食べる子供は87%であった。 	<ul style="list-style-type: none"> いじめアンケートに加え、QU調査により、児童の関係性の把握に努め対応できた。 「わたしは学校が楽しい」【94%】 「命の大切さや社会のきまりについて教えてもらっている」【94%】 QU学校生活満足群【83%】 道徳・人権の授業は公開できた。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別の指導は大きな成果を認められるものの、教員数の関係で必要最低限の時間数での実施である。できればもう少し充実させたい。 研究授業は全学年実施できた。 ノート指導は、どの学年も同じスタンスで取り組むことができた。 県学力到達度調査での無回答率が県平均の2倍であった【22%】。対策が必要である。 「わたしは学校での勉強がわかる」【83%】
改善方法に向けての	<ul style="list-style-type: none"> 今年度ほとんど実施できていない学校行事や参観、育友会行事、子どもセンター行事など、できる範囲で取り組む。 地域素材を教材化し開発するように努める。 コミュニティスクールや共育をもっと活用し、地域との関わりを増やしていく。 学校の情報をもっと発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「わんわん貯金」の実施は、子供たちへの意欲付けや、生活の振り返りになっているが、集計等の負担が大きいため、より効率の良い方法を探っていく。 地震が起こった際には、反射的に身の安全を確保できる児童が増えてきたが、地震だけでなく、大雨等の悪天候についても取り組む必要がある。 感染対策のさらなる徹底。 	<ul style="list-style-type: none"> 関係機関や特別支援学校等との連携をさらに深め、支援が必要な児童の教育環境を整えていく。 また、児童への障害者理解を促進していく。 道徳授業の充実を図るとともに、特別活動や総合的な学習の時間などでの体験を通じて実践力を養う。評価についても引き続き研究していく。 いじめ防止基本方針について、適宜見直し。迅速に対応できるよう教職員で共通理解を図る。 QUの有効活用の推進。 	<ul style="list-style-type: none"> 「わかった」「できた」と児童が思えるよう、教員の授業力を高めていく。 今後も、すべての児童のために環境や授業のユニバーサルデザイン化を図る。 無回答率を改善するために、その原因と対応を把握し、共通理解を図る。 学用品の統一については一定の効果があつたので、引き続き取り組んでいく。

3 その他の課題

- 個別指導については、本人の自己肯定感の向上や、学習内容の定着にかなり効果が上がっている。来年度についてはどれだけの時間数をあてられるかはわからないが、自己肯定感を高める取組は続けたい。
- GIGAスクール構想による1人1台の情報端末を有効に使うために、職員の研修をしっかりと持つ必要がある。どのクラスでも同じように取り組めるようにしていく。
- 令和2年度はほとんどの行事ができず、地域との関りも薄かったが、次年度は様々な配慮をしながらもっと活動できるように取り組む。